

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議
(第10期 第2年 第2回 第1日)
ぎじろく
議事録

1 日時 2015(平成27)年6月21日(日) 午後2時～5時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 21人

張 氷青、任 家林、王 夕心、金 スンオグ、孔 敏淑、河 相宇、
ヴィラマー ジェリー、牟 鳳菊、グエン ゴク バオ リン、ヘイ ジャ
フィ、仲田 シリワン、ヒラチャン アスカ、ケゼン グア エドワード、セヌー
ジョアキム、鈴木 イエレナ、バルトコバ オクサナ、河本 ファビオ 良則、
シフケン ブランドン、オルソン チャールズ、ディットマー ダニエラ、董
埴恆

(2) 事務局

石川 室長、町田 担当課長、大田 担当課長、須藤 課長補佐、笛木 担当
係長、小沢 担当係長、丸橋 職員、西村 職員、高橋 専門調査員

4 傍聴者 3人

5 会議次第(公開)

(1) 開会のあいさつ

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

セヌー委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議2015年度第2
回第1日を開催する。今日は、園田さん、劉さん、タカハシさん、葉さんと

崔さんから欠席の連絡があった。本日の応援職員の紹介を事務局から願うする。」

(事務局須藤課長補佐が紹介。)

セヌー委員長「それでは、今日の日程と配付資料の確認をお願いする。」

(事務局須藤課長補佐が説明。)

セヌー委員長「続いて、前回会議のまとめについて事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員と丸橋職員が資料1に基づき説明。)

セヌー委員長「それでは、議事に入る。まずは、市民祭りへの参加について審議する。事務局から説明をお願いする。」

(事務局丸橋職員が資料2に基づき説明。)

セヌー委員長「まずは、参加日を決めたい。事務局から説明があったとおり初日は日曜日で、翌日は月曜日、平日だ。3日目は火曜日だが祝日だ。例年だと2日間参加しているが、今年はどうするか。」

ヒラチャン委員「今日の会議の前に市民祭り実行委員会で話をした。実行委員会で話したときは、1日目と3日目がいいのではないのかなということになった。ただし、事務局案と少し違うのは、1日目はパレードとテントをやるが3日目のステージに何ができるかわからないので、参加するかどうかも含めて検討してほしい。」

セヌー委員長「今の実行委員会の説明について質問や意見はあるか。」

王委員「みなさんの知り合いで、ステージに出ていただける方がいたら紹介してほしい。」

セヌー委員長「ほかの意見や質問はあるか。(なし)それでは、実行委員会の説明を踏まえて参加日を決めたい。実行委員会では、初日にパレードとテント、2日目は休みで、3日目はステージという案だった。」

王委員「1日目にすべてやってもよいのではないか。」

セヌー委員長「参加できる人の人数を確認したい。まずは初日に参加できる人は。(挙手) 念のために確認するが、2日目に参加したいという人はいるか。(なし) 3日目に参加できる人は。(挙手)」

事務局丸橋職員「エントリーの関係でパレードとステージの参加について日程を決めてほしい。3日目は5人しか参加できる人がいなかったが、1日目にパレードとステージをやるとなるとテントにいる時間がほとんどなくなって

しまうのではないかと心配している。」

ヒラチャン委員「事務局からの説明だと、テントは間をあけて出せないで、3日も続けて出すか、1日・2日と出すのか、2日・3日と出すのかということだった。」

セヌー委員長「そうだと、3日目は5人しかいなくて、テントもないので参加するのは難しいのではないか。」

シフケン委員「1日目だけにして、なるべくみんなが参加するようにすればよいのではないか。」

ヒラチャン委員「現実的に考えても、今回は1日目だけというのがよいのかなと思う。」

ヘイ委員「ステージに参加するかどうかを決める前に、何かステージでできるものがあるかどうかを確認した方がよいのでは。」

セヌー委員長「みなさんから何かステージのアイデアはあるか。」

シフケン委員「ステージはなしで、パレードとテントだけにするのがよいと思う。」

セヌー委員長「それでは、参加するのは11月1日だけで、内容はパレードとテントということで賛成の人は手を挙げてください。（賛成多数）それでは、市民祭りに参加するのは11月1日、参加する内容はパレードとテントということで決めた。せっくなので、できればみなさんの友人とか家族、子どもたちも連れてパレードに参加してほしい。

次の議題は、臨時会の企画についてだ。市民祭りについて予定より時間がかかってしまった。臨時会については今日、決めなければいけないことはないので、次回にまわすということによいか。（賛成多数）では、次回の会議にまわすこととしたい。それでは、次は提言の評価についてだ。事務局から説明をお願いする。」

（事務局高橋専門調査員が資料4に基づき説明。）

セヌー委員長「今の事務局の説明について、意見や質問はあるか。（なし）では、自分が賛成する案に手を挙げてください。1回ではなく、何回挙げてもいいです。①の案に賛成する人（なし）。②の案に賛成する人（なし）。③の案に賛成する人（9人）。④の案に賛成する人（12人）。何か意見がある人はいるか。」

河委員「大事な提言が市の方できちんと検証されているかどうかということだ

と思う。その仕組みがないのであれば、つくらなければいけないと思う。」

金委員「5年ごとなど、定期的に提言を検証する仕組みをつくるのがよいと思う。」

自己評価ではなく、代表者も加わるが、もう少し上のレベルで専門家なども加えて検証するのがよいと思う。」

張委員「そもそも、この評価について言い出したのは私だ。これまでも難しい問題だからと先延ばしにされてきたが、せっかく第10期という節目なので、なんとか私たちが提言したい。」

オルソン副委員長「私は④に賛成した。大事な問題だとは思いますが、もし取組が不十分だと感じたなら、そのときの代表者がまた提言するのがよいと思う。」

ダニエラ委員「提言にはならないかもしれないが、新しく期が変わるときに代表者がまずは過去の提言の問題について検討するということをしてもよいかもしれない。」

セヌー委員長「ほかに意見はあるか。(なし)では、提言の候補にするかどうかを決めたい。賛成の人は挙手を。(反対多数)では、この提言の評価については提言とはしないことに決まった。もう審議テーマからも外すことになる。それでは、部会審議に移る。社会生活部会はレセプションルーム、福祉教育部会は第1会議室に移動してください。」

【福祉教育部会】

仲田部会長代理「それでは、福祉教育部会を始める。今日はよろしくお願ひします。まずは事務局からお願ひする。」

(事務局高橋専門調査員が資料5-1に基づき説明。)

仲田部会長代理「それでは1つのテーマについて、6分ずつらいで振り返りをしていきたい。まずは子育てガイドブックについて何かあるか。」

金委員「各区でばらばらなのは、地域に密着した情報発信だからだと思うので、ばらばらでなければいけないと思う。川崎区以外でもニーズはあると思う。」

ゲゼングア委員「予算の問題をクリアしているのであれば、工夫次第で他の区でも同じようにできるのではないかと思う。あと、みなさんも言っているが地域に密着している情報の提供した方が絶対によい。」

仲田部会長代理「次のテーマに行きたい。学校と教育のことだが、保護者への支援は第9期で提言している。いじめの問題は第8期で提言している。前に牟さん

が言っていた外国人保護者の会については、個人情報との関係で今は厳しくなっている。」

金委員「外国人保護者の会についてだが、今は子どもも減っているし、親も忙しいのでPTA活動への参加も少なくなっている状況だ。学校・教育について提言するなら、保護者への支援なのか、子どもへの支援なのかははっきり分けた方がよいと思う。いじめも、すごく漠然とし過ぎていて難しい。」

仲田部会長代理「いじめは外国人だけではなくて、今は先生もターゲットになってしまったりする。ターゲットもいろいろなので、話をまとめるのは難しいと思う。」

金委員「保護者支援が第9期で提言済みだが、これはA評価になったのか。」

事務局高橋専門調査員「B評価だ。川崎市がつくっているハンドブックがあるのだが、それを文部科学省がつくっているガイドブックのようにして欲しいというのがあり、それに関してはすでに取組をしてくれている。ただ、担当課としては、他にも取組をした方がよいのではないかとということで、継続のBになっているそうだ。」

牟委員「先日、NPOに頼まれて日本語が話せない保護者の学校での通訳の支援をしたのだが、どこかに相談できるところはないのか。それと、逆に支援をしたいと思ったらどうすればよいのか。」

仲田部会長代理「多言語の相談窓口は最近だと川崎区と麻生区の区役所でやっているはずだ。あとは国際交流センターもある。」

牟委員「私が思ったのは、同じ学校の中で中国語ができる人が分かれば、助けてもらえるのはということだ。」

事務局高橋専門調査員「これは前回、部会長が話していたことだが、国際交流センターのボランティアに登録すれば困っている保護者を支援することができる。その制度を学校の先生がよく知らないというのは、たしかに課題かもしれない。ただ、昔とは違って個人情報の問題があるので、学校の中で先生が言葉ができる人をすぐに紹介してくれればよいのに、というのが難しいことは理解して欲しい。」

バルトコバ委員「厳しいことを言うかもしれないが、保護者がどのくらい本当に困っているのか、というのもあると思う。本当に困っているのであれば、周りの人に聞いたりできないのか。たしかに、行政がどうやって情報を伝えるかという課題もあるが、私の周りにも『情報がない』というだけで、自分で探そうと

したりしない人もいる。」

河本委員「その通りだと思ふ。役所の対応は大事だが、役所は助けを求めている人が誰なのかはわからない。自分が声を出さないと、助けようがない。役所が一人一人に『あなたは助けが必要ですか』と聞いて確認することはできない。自分が困っているなら、まずは自分で声をあげないといけないと思ふ。」

仲田部会長代理「皆さんの意見を聞いていたら、やはり5番のフィールドワークの場所の居場所づくりが一番重要な気がする。居場所づくりについて、みなさんはどうか。」

ケゼンダ委員「居場所として『つづきMYプラザ』のようなところは非常にいいと思ふ。川崎市でつくる場合には、川崎市は細長いので真ん中の中原区にたつてもなかなか乗れない人がでてしまう。」

ヒラチャン委員「私はフィールドワークには行けなかったのだが、皆さんが話している通りだと思ふ。多分、外国人で実際に助けがいる人にも2つのパターンがある。1つは、自分で動いているけれども、どうしていいかわからない人、もう1つは、何とかなるから放っておけばいいだろうみたいな人がいると思ふ。前者の何とかしたいけれど、どうしていいかわからないという人を助けるということが必要だと思ふ。区役所で対応するという考えもあるかもしれないが、なかなか区役所のようなオフィシャルなところには行きづらい、相談しづらいという人もいる。そういった人たちのために、支援のネットワークをつくらせてアクセスできるようにすることが重要だと思ふ。だから、私たちが考えなければいけないのはどうやって、その存在を知らせたり、アクセスできるようにするのか、という部分だ。」

仲田部会長代理「ほかにも参加しなかった人たちの意見も聞きたい。」

ヘイ委員「私も皆さんの話を聞いていると、居場所づくりというのがすごくいいなというのを感じている。ただ、実現するのはなかなか難しいかもしれないと思ふ。市としては、国際交流センターや市民館ではダメなのか、ということを考えているだろう。提言の仕方や方向をよく考えて、工夫しないといけないと思ふ。」

鈴木委員「子育てについては、学校でも幼稚園でもやはり先生に聞いた方がわかりやすいと思ふ。区役所に行っても、説明しにくいことの場合もあるし、日本語が難しい場合もある。でも、身近なところ、よく行っているところで相談できるようにするといいと思ふ。」

仲田部会長代理「では、次に3番の介護の話に行きたい。」

金委員「65歳以降も引き続き日本で暮らして一生を終えたいと思う外国人の人は、今後ますます増えてくるだろうと思う。介護保険の仕組みを説明するパンフレットは多言語版はあるが、もう少しわかりやすいものが必要だと思う。40歳以上の人は強制加入で、保険料を納めているわけだから、いざ必要になったときに利用しにくいというのは問題だ。」

バルトコバ委員「イラストがあったりするとわかりやすい。」

仲田部会長代理「外国人だけではなくて、日本人にも難しい制度だと思う。提言にするかどうかはわからないが、たしかに改善して欲しい。

それでは、続いて4番の年金について。年金については、第8期でも提言にしているが、評価はBだ。」

ヒラチャン委員「介護も年金も制度がわかりづらい。わかりやすい説明は大事だ。2つとも制度のわかりやすい説明については、提言できそうな気がするが、脱退一時金や社会保障協定については、川崎市の管轄を超えるので現実的ではないと思う。」

仲田部会長代理「では、最後に母語と母文化について。」

ヒラチャン委員「自分の国の言葉とかを教えるというのは、両親としては当然したいことだろうと思う。英語とか中国語だったらニーズも多いだろうし、人もたくさんいるので何とかなるのかなと思う。あとは、それをオフィシャルな制度としてするとすると、どこまでするのか、ということが難しい。たとえば自分の場合だと、ネパール語なんて誰が教えられるのか。何人かしかいないし、ニーズもどこまであるのかな。」

事務局高橋専門調査員「これは前回、皆さんが話し合っていたことの私なりの理解だが、今までの代表者会議では、母語や母文化を子どもに教えたい、子どもに学んでほしい、そのための教える人がいない、グループをつくってもなくなってしまふ、といった話がメインだった。それに対して、前回、皆さんが審議していたときのポイントは、子どもたちが自分のルーツの言葉だったり、文化に対して興味をもつような機会をつくってあげることが重要ではないか、という部分にあったと思う。違いや文化を認めあって、誇りを持てるような環境づくりにもっと力を入れるということを前は話していたと記憶している。」

仲田部会長代理「そろそろ時間なので、皆さんの希望を順番に聞きたい。今日は人数も少ないので、まだ決定ではない。次回、欠席した人にも希望を聞いて

決定になる。」

高橋専門調査員「1つだけよろしいですか。これは私の意見ですが、先ほどから皆さんはお金がかからなくてできることというのをすごく意識してくれているような気がする。もちろん、コストのことを考えるのは重要だが、必要なことにはお金をかけるべきだと思う。皆さんは税金を納めているわけなので、その使い道について意見を主張する権利があると思う。それは代表者会議ができたそもその理念でもある。実現できるかどうかは別として、必要だと思うのなら、私は遠慮する必要はないと思う。たとえば子育てガイドブックのように、他の提言ではあまりコストをかけなくてもよいものもあるので、お金がかかることばかりを主張しているわけではないというのは伝わると思う。」

仲田部会長代理「では、順番に番号を言うので、1人2回手を挙げてください。」

(希望を確認：1-①…0人、1-②…3人、1-③…0人、1-④…0人、2-①…0人、2-②…0人、2-③…1人、2-④…2人、2-⑤…0人、3…1人、4…0人、5…6人、6…1人、7…3人)

仲田部会長代理「先ほども言ったが、今日は欠席者が多いので次回、欠席者にも希望を聞いて提言を決めたい。それでは、今日はこれで部会を終わりにする。ありがとうございました。」

【社会生活部会】

任部会長「それでは社会生活部会をはじめます。今日から振り返りに入る。まずは、前回の残り、追加で事務局に調べてもらったことがあるので、事務局から説明をお願いします。」

(事務局丸橋職員が資料6-1に基づき説明。)

任部会長「何か質問や意見はあるか。」

オルソン副委員長「医療についてのCLAIRのサイトはとてもよいと思った。自分の言葉で話せる病院を見つけることは重要なことだ。川崎市でも情報があるか考えたい。」

任部会長「それでは、ここからは提言にしたい候補を選んでいきたい。1人2つまで投票をしてもらって、上位のものから優先的に振り返りをしたい。候補は資料6-2にリストがある。」

(希望を確認：1…2人、2…4人、3…0人、4…0人、5…4人、6…5人、7…7人、8…1人、9…0人)

任部会長「それでは、優先順位としては1位が7の情報伝達、2位が6の区役所サービス、3位が2の介護職の就職支援と5の居住支援が同率だ。それから5の就職支援全般、8の行政と市民のコミュニケーション環境づくりと続く。振り返りは、今回と次回の2回を考えているのだが、6つのテーマをどうやって振り返るか、意見があればどうぞ。」

張委員「居住支援制度は、情報伝達の中にも含まれているのではないかなと思う。ほかにも、短期滞在者への支援の家具・家電のリサイクルも、介護職の就職支援も情報と関わっていると思う。」

ディットマー委員「質問だが、結局、今期で出す提言は2つだけか。」

事務局丸橋職員「提言の数については、みなさんで決めていただくことで、決まりはない。ただし、これまでだと各部会から1つか2つずつとなっているので、それくらいが現実的だとは思う。」

任部会長「それでは、上位の4つのテーマを候補にして議論して振り返りをしていきたいと思うがそれでよいか。（異議なし）それでは、4つのテーマを今回と次回の2回で消化したい。まずは、情報伝達からはじめたい。拳手をした人は順番に意見をお願いする。」

オルソン副委員長「最初から興味を持っていたテーマなので、手を挙げた。幅広いいろいろなことに関連するテーマだと思う。東京には情報がたくさんあるので、川崎も同じようになるとよいと思う。」

任部会長「東京には情報がたくさんあるというのは、民間のものも含めてだろう。提言は市に対してするものなので、そのあたりも考える必要がある。」

張委員「私も手を挙げたが、情報はたくさんある。問題は情報を知らない人がどうやって情報を知るかだ。」

孔委員「前にも話したが、介護職の就職支援というテーマは実際に私の知り合いがそういう介護の仕事をしたかったけれど、なかなかそこまで情報を得るのが難しかったということがあったので提案した。私たち代表者が知っている情報をニューズレターなどでPRするのも1つの方法かもしれない。」

ヴィラマー委員「個人的には6の区役所サービスにしたいのだが、区役所というのは川崎市全体の窓口ということになるので、当然、市民にどうすればいいサービスを提供できるかということを考えていけない。」

シフケン委員「子育て関連の情報のことを考えて情報伝達に手を挙げた。たとえば、赤ちゃんの注射とか学校からの情報など、日本語のできないお母さんは不安を

いっぱい抱えていると思う。その情報を徹底したい。」

河委員「いろいろ勉強してきた中で、たくさんの情報があるということがわかって、逆に情報が多すぎるのではないかと感じている。人それぞれ求めている情報も違うので、どこに行けば必要な情報や資料がもらえるのかがもっとシンプルにわかりやすくなるとよいと思う。あとは、みなさんの関心が広すぎるので、分野を狭めないと言言にするのは難しいと思う。個人的には緊急時とか何かトラブルがあったときに、ここに連絡すればよいという情報整備に絞るのがよいのではないかと考えている。」

グエン委員「緊急対応はとても共感するが、やはり言葉の問題が大きくて、とくに命に関わることだと、病院などでも慎重になるのはわかる。言葉がわからないのに、適当に対応することはできないだろう。緊急対応を提言にするとしても、具体的にどういう仕組みにするのかは難しい気もする。河さんが言っていたように、情報は多すぎるので、ただ発信をしても混乱するだけだと思う。」

任部会長「そろそろ時間になる。」

ディットマー委員「私、次回はいないので発言とさせて欲しい。私は7番ではなくて、6番で挙手した。それは、情報伝達はさっきも言われたように、情報はたくさんあるが、それを取りに行くというのは個人の責任でもあると思うので、市としてはあまり何もできないと思うからだ。それに対して、6番の窓口サービスの改善・充実というかたちにすれば、本当に自分に必要なものを見つけるのに役立つのではないと思う。情報発信とか情報伝達というかたちにするよりも、ハブになるような窓口をつくる方が有効だと思う。」

任部会長「時間になったので、ここで終わりにする。次回も今回のように掘り下げていきたい。お疲れさまでした。」

【全体会】

セヌー委員長「全体会を再開する。まずは、部会報告だ。福祉教育部会からお願いする。」

仲田委員「今日は、振り返りの話の続きをした。最初は子育てガイドブックについてで、川崎区では3年に1回、予算を多言語版に使っている。他の区でも同じようにできるのではないかと話を話した。外国人保護者の会については、今は個人情報の問題もあって難しいという話をした。居場所づくりに

についても審議した。フィールドワークへ行った人以外からも意見を聞いた。介護については、制度は外国人だけではなくて日本人にとっても難しいので簡単なリーフレットがあるとよいという意見が出た。年金については、第8期でも提言が出ているが、制度も変わるかもしれないので提言にするのは難しいのではないかとということになった。母語・母文化についても話したが、これも提言にするのは難しいという意見が多かった。一応、提言の候補を絞った。子育てガイドブック、外国人保護者の会、国際理解教育、介護、居場所づくり、母語・母文化、高校進学だ。」

セヌー委員長「同じ福祉教育部会の人からの補足はあるか。（なし）社会生活部会から質問はあるか。（なし）では、続いて社会生活部会から報告をお願いします。」

任部会長「今回やっと提言を絞るという段階に入った。前回の宿題が1個あって、追加で調べてもらったのが資料6-1-①から④で、外国人に向けてのリンク集だ。提言の絞り込みは1人、2回ずつ手を挙げてもらった。今日はその中から主に情報伝達について審議した。意見としては、東京都の情報は充実しているという意見があった。分野別の課題としては、介護、子育て、緊急・災害時の情報伝達という話があった。ほかに、ハブとなる窓口があると困ったときに情報にたどり着けるという意見もあった。次回は、引き続き残りのテーマについても審議していきたい。」

セヌー委員長「同じ社会生活部会の人から補足はあるか。（なし）では、福祉教育部会から質問はあるか。（なし）それでは、実行委員会報告に移る。まずは、臨時会実行委員会からお願いします。」

オルソン副委員長「今回の臨時会ではできるだけいろいろな人が話ができるようにしたい。できるだけ参加者の声を聞けるようにしたいという意見が多かった。いくつかのグループに分かれて話ができるとよい。課題としては、必ずしも日本語能力が高くない人の対応をどうするかということだ。」

セヌー委員長「何か質問や意見はあるか。（なし）続いてニューズレター実行委員会から報告をお願いします。」

孔委員「今は、ニューズレターNo. 54の原稿が作業中だ。今日はNo. 55の原稿案について話し合った。No. 55の発行予定は1月上旬だ。インターナショナル・フェスティバルinカワサキの記事は任さんが、市民祭りはヴィラマー・ジェリーさんが書く。オープン会議については、間に合

うかどうかわからないので様子を見ることになった。あとは、居住支援制度と公営住宅の紹介を金さんが、それと毎年、川崎市で開かれている川崎国際環境技術展については、グエンさんが記事を書くことになった。」

セヌー委員長「何か質問や意見はあるか。(なし)次は、市民祭り実行委員会からお願いする。」

ヒラチャン委員「7月5日のインターナショナル・フェスティバルについてだが、展示パネルには写真、国旗、あと国のあいさつを載せたいと思う。企画としては、じゃんけん、クイズ、と国旗を描いてもらう。子ども用の簡単なくイズについては、仲田さんが子ども用の本を持って来てくれたので、それを使いたいと思う。」

セヌー委員長「何か質問や意見がある人はいるか。」

ディットマー委員「単純な質問だが、場所はどこか。」

事務局丸橋職員「正面の入口から入って突き当たったところの右の展示室の前だ。」

セヌー委員長「今日の議事はすべて終わった。事務局から事務連絡をお願いする。」

事務局町田課長「資料に『川崎市国際施策推進プラン案』というのがある。明日から7月21日までパブリックコメントを行うので、ご意見があればFAXやメールで受け付けているのでお願いしたい。7月11日には国際交流センターで市民説明会というのもある。」

事務局高橋専門調査員「『外国人登録証明書をお持ちの皆様へ』という資料を配布してある。切り替えが済んでいない方は忘れずをお願いしたい。また、周りの方にも声かけをするなどお知らせをお願いしたい。資料コーナーに多言語の資料も置いてある。」

セヌー委員長「次回の会議は9月13日の日曜日、午後2時からここ国際交流センターで開催する。これで2015年度第2回第1日の会議を終わりにする。お疲れさまでした。」